

(様式2)

平成 29 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591300205		
法人名	社会福祉法人吉田福祉会		
事業所名	グループホーム長善のさと		
所在地	新潟県燕市粟生津55番地		
自己評価作成日	平成29年8月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成29年8月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム長善のさが開設し1年が経ちました。ご利用者、職員共にバタバタしながら徐々に暮らしに慣れてきましたが、今だ目の前のことで精一杯でご利用者が安心できるケアが実践できているのか、そしてご家族が安心して長善のさに任せることができているのか。アピールできることはありません、まだ多くの課題や今後、頑張っていかなければいけない事の方が多のが現状です。

当事業所は、燕市の粟生津地区の農村部にあり、戦前からあった「長善館」という私塾の跡地を利用してグループホーム、小規模多機能センター、高齢者シェアハウスを開設したもので、開設から1年が経過したところである。グループホームの入居者と小規模多機能センターの利用者が共に食堂兼ダイニングで過ごすなど、複合施設のメリットが活かされている。

広い敷地の中には蔵や和風の庭園が残されており、緑豊かな落ち着いた環境である。建物は平屋であるが天井が高いため明るく、梁がむき出しに組まれて古民家風の造りである。近くには小学校や保育園があり、通学時や散歩時には声掛け挨拶を交わし日常的に交流している。地域のお祭りや行事にも誘いを受けて利用者とともに参加し、地域の方々と交流を深めている。

利用者一人ひとりに寄り添い、『じよんのび』(新潟の方言で「ゆったり、のんびり」している様)できることを理念として、職員も和気あいあいとケアに取り組んでおり、利用者の家族とも良好な関係がつけられている。今後益々地域に根差した事業所運営が期待されることである。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に、職員全員で時間をかけて悩みながら理念を考えた。理念は玄関に掲示してある。新年度に入り、理念は継続のまま。新年度に理念の確認を行った。	平成28年の開設時に職員で検討して作成した理念を、今年3月に職員会議で振り返りを行い、日々のケアで対応に迷った時の指針として理念を活用するようにしている。また、玄関の出入りに掲示していつでも確認できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事が多い地域なのでお誘いを頂き、参加している。地域の老人会の方に草取りに来て頂いたり、小学校、保育園が近いので交流は多い。	小学校の児童が授業の一環で訪問してくれたり、近くの保育園から敬老会に招待されたり、散歩時には声をかけ合うなど交流に努めている。また、地域の防災訓練やお祭りにも出来るだけ利用者とともに参加している。踊りや歌などのボランティアの訪問もあり、日常的に地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としては実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーの皆様からは意見やアドバイス、地域の情報交換ができています。会議の報告をご利用者やご家族には伝えていないので今後の課題である。	今年7月に第1回目の会議を開催した。燕市長寿福祉課の担当者、地区会長、民生委員、地域包括支援センター職員、地区の体育館長等のメンバーで構成されているが、次回からは利用者、家族の参加を予定している。また、協力的な地区であるため、会議の構成メンバーについてさらに検討している。会議では、事業所の利用報告や、地域の行事予定、防災訓練等について話し合いがなされた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密な連絡は取りあっていない。運営推進会議に市の担当者が参加しているのでホームの運営等、報告や相談ができています。	運営推進会議には市の担当者が参加しており、そこで報告や相談ができています。また、市が開催する事例検討会には積極的に参加して、関係部署との交流を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。事業所の研修計画に身体拘束の研修を盛り込んであるが、今年度はまだ実施できていない。	開設前から職員間で週1回勉強会を開催し、身体拘束のないケアに取り組んできている。帰宅願望の強い利用者には、その都度職員と一緒に歩いたり、時には家族とも連携し自宅まで車で外出したりしている。玄関は日中は施錠せず、普段から利用者個々の言動に配慮しながら、自由な暮らしを支援している。研修も計画しているが、具体的な実施はこれからの段階である。	マニュアルについては、法人で整備したものがあがるが、事業所としてのものが確認できなかった。早急に事業所としてのマニュアルを整備し、それを基に研修を企画・実施することに取り組んでほしい。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会は実施できていない。スタッフ会議では近年の虐待事件やテレビでの報道等を取り上げ、職員間での日頃のストレスや他人事ではないこと等は話合っている。	今年度後半に地域包括支援センターに依頼して内部研修を予定している。また、職員のストレスが見られる時は、声掛けしたり、業務を交代したりしている。毎月の職員会議では、職員個々に、利用者や支援のエピソードなどを記入してもらい共有している。また、報道された事例を会議等で話題にして職員個々のケアに対する意識を高めるように取り組んでいる。	事業所としてのマニュアルを早急に整備して研修を実施するなど、職員がより理解を深められるよう取り組むことを期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設には、成年後見、権利擁護を利用されている方はいない。事業所の研修計画に虐待研修を盛り込んでいるが、今年度はまだ実施できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読んで頂き、内容を分かりやすく説明するように努めている。不明な点等ないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が玄関に設置してある。法人で年1回ご利用者、ご家族に意見や要望等のアンケートを送付している。意見をもとに事業所のケア等の改善に努めている。	家族との関係を構築するために、面会時や受診時に出来るだけ話をしたり、希望や意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。事業所に意見箱を設置したり、法人で年1回利用者・家族を対象としたアンケートを実施し結果が事業所にフィードバックされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催している。職員が意見を言える場になるよう事前に意見を記入してもらっている。年2回の面接や年1回上司を超えて法人に対して意見を言える機会もある。職員が意見を言いやすい雰囲気作りには努めている。	月1回の職員会議では、職員が気軽に意見を出せるように、予め議題とする意見等を記入してもらっている。年2回の個人面接や年1回の法人面接は職員が意見や要望などを話せる機会となっている。また、管理者も普段から業務に入っており、日ごろから話しやすい雰囲気づくりに心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の上司との面接で目標や実績を評価し向上心を持って働けるよう、思いを聴きとる努力はしている。職員のストレス緩和のために法人でカウンセラーを配置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や近隣のGHとの交換研修も実施している。研修を経て学ぶこと、そして自分の施設の良さを感ぜられる機会にもなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	燕・弥彦地区の全GHとの意見交換が定期的に行われている。また、年1回管理者のみでなく、現場職員も含めた親睦会も行われている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接において、ご本人・ご家族の現状と思いを確認させていただく。資料を鵜呑みにしたり、先入観を持たないよう気をつけている。また、利用に関してできる事、出来ないことを伝え、見学してもらい決定して頂く。利用してからも退所することは可能であることも伝え、安心に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のこれまでの苦勞を受け止めて話を伺うよう心掛けている。特に入所直後などは、ご家族が安心して頂けるよう、様子をこまめに報告するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みに来られても、即入所に結び付けることはできないので、法人内のGHへの同時申し込みを勧めたり、その緊急性によって他のサービスを紹介したりするなど対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は「介護者の立場」ではなく「一緒に暮らす家族の立場」であることは共有している。上からではなく常に「隣にいる立場」でありたいと思っている。ご利用者に対して感謝の気持ちを伝え「教えて頂く」という場面を作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後もご家族とも関係が保たれるよう毎月、状態報告書を郵送している。面会に来てくださった時は居心地良く過ごせるよう配慮している。	月1回、本人の日常生活の様子を記入した状態報告書を家族へ郵送して関係づくりに努めている。また、家族の面会時や、かかりつけ医への受診付き添いなどで来訪した際には、本人の様子を伝え家族からも希望などを聞くように努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入所しても、今までの暮らしを続けた地域から切り離さないよう馴染みの場所に出かけられる機会を作るよう心掛けている。	祭りなどの地域の行事にはできるだけ利用者と一緒に参加しており、地域の方に声を掛けてもらうなど、馴染みの方達との交流が図られている。また、自宅へ帰りたいという利用者には、寄り添いながら一緒に歩いたり、車で自宅へ行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	対職員との関係性だけでなく、ご利用者の関係性を大切にしたいと考えている。職員が皆さんを巻き込んだコミュニケーションやご利用者の間に入り意識して良い関係性が作られるよう努めている。様々な場面で関係性が持てる事を見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は殆どの方がその後の関わりがなくなくなってしまうが、野菜を届けて下さるご家族などは今もいらっしゃる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを具体的に伝えられない状態の方も中にはいらっしゃるので、寄り添い関わりながら本人の思いを探っている。本人らしい暮らしが送れるよう心掛けている。本人の事を分かったつもりにならないよう意識している。	家族や親族からの情報だけでなく、利用者本人からも日々の会話や行事等の際に聞き取るように働きかけている。利用者との会話から心に残った言葉などは日誌に記録して申し送ったり、毎月の職員会議で確認している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にご家族・ケアマネ等により情報収集してはいるが、利用開始に全てを話せるものではない。入所にもご折に触れて話は聴いている。	入居時のみならず入居後も家族の面会時や日常の関わりを通してさらに把握に努めている。毎月の職員会議では、利用者一人ひとりのケアについて検討会が行われており、そこで情報の共有が図られている。	個々の利用者の追加情報は日誌に記載して共有を図っており、毎月の職員会議でも新たな情報に基づくケアの検討を行っている。だが、現在のところ追加情報が個人のケース記録に記載されていない。追加情報は個人の記録として重要であるため、記録の整備について更なる検討を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者のその日その日の暮らし方は、その日その日によって変わる。ご本人のペースに合わせてながら、その時々の状態を見極めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する場合は、家族の意見を確認する事、毎月のスタッフ会議にてカンファレンスを実施している。自分の思い上手く伝えることが出来ない場合もあるのでできるだけ日々の中で本人の言葉を聴きとるようにしている。	計画作成担当者が利用者・家族の意向を確認し担当職員と相談しながら計画を立案して職員会議でカンファレンスを行い検討している。計画は1ヶ月ごとに評価を行い、3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。家族には、面会時などに介護計画の説明をし、同意を得ている。認知症による物盗られ妄想の強い利用者への対応については、家族にもカンファレンスに参加してもらい、家族と協力した支援を検討し、介護計画にも家族の役割を記載して共にケアにあたっている。	家族との関係は良好で、面会時には個々に面談や相談を行っている。だが、介護計画の内容について話し合う場に利用者や家族が参加する機会が多くない。家族により良い介護計画作りのための役割としてカンファレンス等への参加を働きかけることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有が滞らないよう日誌や日々の申し送りの仕方などに配慮している。記録も書いて終わりではなく、その後の状況や様子も追いかけていくようには努めているが、十分とは言えない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、ご利用者のニーズに応える努力はしている。		
29		○地域資源との協働	地域に出かけることで長善のさを知ってもらえる機会になるので、積極的に地域の行事には参加している。また、利用者に暮らし慣れている地域との関わりこそ大切にしなければと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も今までのかかりつけ医を継続している。また、入院した時、退院する時、それぞれスムーズに進むよう、医療関係者との連携は重要だと考えている。	ほとんどの利用者が入居前のかかりつけ医を継続しており、家族同行の受診を基本としている。また、訪問看護ステーションの看護師が週2回来訪して利用者の健康管理について相談や支援を行うほか、24時間体制での対応もお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約している。週2回の訪問と必要時の助言等をお願いしている。24H体制なので協力的で、いつでも対応してもらえる。介護の視点を大切に考えてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合はケアマネから病院に情報提供している。面会に行き、看護師に状態を確認したり、病院からも状況を連絡もらったりできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としてできる取り組みは行っておりその時は一生懸命取り組むが、まだまだ、十分と言えない。	看取りについては、事業所として対応する方針であるが、開設してまだ1年ほどなので具体的な事例はない。訪問看護ステーションとの連携体制ができており、一つ一つ検討を重ねて取り組んでいこうというところである。	看取り介護を行う方針については、文書化されていない。家族の意向を十分に汲み取り、関係者がそれに沿って共に取り組むためにも、方針の明文化や具体的な職員の研修など、今後の取り組みが期待される。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命救急講習を受講している。訪問看護からも処置や急変時の対応について年1回、指導を受けている	各種マニュアルは事務室に設置し、いつでも確認できるようにしている。消防署主催の救命救急講習は職員が全員受講しており、訪問看護師からも急変時などの初期対応の指導を受けている。法人内の感染部会に事業所からも部会員を出している。今秋には嘔吐処理研修を行う予定である。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、避難訓練実施している、また、地域全体での訓練にもご利用者と参加している。地域との協力体制がまだ不自由分なので今後も課題である。	火災、風水害、地震等のマニュアルを整備して事務室に設置し、いつでも確認できるようにしている。年2回は消防署主催の避難訓練を実施しており、また、地域との協力関係は良好なので、地域の防災協力委員との連携体制の構築を今後の課題として取り組む予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけているが、その時々で場面でスタッフ主導になってしまっていることがあるんじゃないかと思う。	トイレ誘導などはさりげなく小さな声で声掛けや対応をしたり、事務室に保管する記録は、出来るだけ利用者の目に入らないよう留意している。排泄や入浴時などでは同性介助の希望があれば希望に応じた対応をするなど、個々を尊重した対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症のために自分の思いを表現しづらくなっていることは職員は理解し、思いを引き出すような関わりを行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課等は特にならない。食事の時間はおおよそ決まっているが一人ひとりの暮らしのペースに合わせて、一日が流れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの装いをしてもらうようにしている。起床時の整容には時間をかけて女性は女性らしくきれいに身支度をしよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力にあった作業ができる関わりをしている。また、作業しながらの会話が楽しく弾むよう心掛けている。	予め献立表は作成しておらず、昼と夜の主菜は法人内の配食サービスを利用し、副菜やみそ汁、小鉢などは毎日担当が食材を見て利用者の希望に応じて相談しながら作っており、おやつなども行事や季節感を反映させて作っている。実施メニューは、法人の栄養士に栄養バランスなどをチェックしてもらいアドバイスを受けて次に活かしている。配膳や後片付けなど出来る範囲で利用者と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事後ではあるが、献立を毎月、栄養士に確認してもらい助言をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態によって、毎食している方、寝る前だけの方がいる。口腔内を観察し必要であれば受診につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ等の使用を一概に減らした方が良いとは考えていない。それらを使用することによって、安心して活動の場が広がるのであれば使用するべきである。排泄のパターンをつかみ個々の状態に合わせた支援に取り組んでいる。	紙パンツを使用している方の排泄の確認を行うほか、自立している方についても本人の訴えや行動の様子などを観察して排泄パターンの把握に努めている。トイレへの声かけなども、さりげなく、他の人に聞こえないよう本人の耳元で促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、個別に良いとされる飲み物や食べ物を取り入れている。また排便の有無の確認を行い、訪問看護の協力を得て必要な処置等が行われている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に「お風呂に入りませんか」と意思確認をしている。無理に入浴を勧めることはないが、時間を変えて誘ってみたり、気持ちよく入浴して頂けるよう取り組んでいる。	入浴は週2回を基本としているが、希望があれば適宜対応しており、個々の状態に応じて見守りや必要な介助をしている。個浴槽が2つあるほか、機械浴槽もあり、重度の方でも対応できるようになっている。入浴を嫌がる方には本人の気持ちに寄り添いながら声かけし、時間を変えたり、職員を代えたりして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に休息してもらっている。就寝も個々で違い、眠れない方には無理に床に入ってもらおうようなことはせず、話をしたりテレビを観たりゆっくりと過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の方にセットしてもらい(注意事項などアドバイスをもらい)届けてもらっている。薬のことで分からないことなどいつでも相談できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中から得意だったことを見つけたら、日々の関わりで、取り組んでみたいことなど一緒に探しながら生き活きとした場面を見つけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけたり、地域の行事に参加している。ご利用者から〇〇行きたいという要望があれば実現できるよう対応している。	季節ごとに出かける機会を作り、花見や地域のお祭り、紅葉狩りなどに出かけている。個別の希望に応じてスーパーへ買い物に出かけたりもしている。家族からの外出や外泊などの申し出にはいつでも対応できるようにしている。家に帰りたいという利用者には、毎日のように職員が寄り添いながら一緒に歩いたり、家族と連絡を取りながら自宅へ行ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理している方もいるが、ほとんどの方が職員で管理させてもらっている。買い物をするときはなるべく本人が支払いできるように関わっているが「おめさん、払って～」という方が大半である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援はしていない。ご利用者自身が言ってくれば電話を手渡すなどはしている。年賀状を担当スタッフと一緒に作り、送る取り組みは行った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が季節にあった貼り絵を作成し壁面に貼っている。季節感や心地よい雰囲気を作り出すようには努めている。職員も環境の一部である事を認識し、声の大きさや物音には配慮している。	内部は天井が高く大きい梁がめぐらされて古民家風の落ち着いた雰囲気であり、窓から差し込む陽光で明るい。壁には利用者と職員が一緒に作った季節感のある貼り絵が飾られ、窓からは緑豊かな和風庭園も臨める。リビングにはテーブル席のほかにソファも置かれており、利用者は思い思いの場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いフロアだけなので、逃げ場所がないのが実情である。フロアの中でそれぞれがゆったりできるように配慮はしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご家族には今まで使っていた家具などをご持参頂ければ・・・と伝えているが大半の方が新しいプラスチックのタンスが多い。今後は写真や思い出の品を増やしていきたいようご家族に働きかけていきたい。	居室には、ベッド以外の家具や調度類の持ち込みも可能である。利用者それぞれが床にカーペットを敷いたり、タンスやテレビ、冷蔵庫などを持ち込んで、その人らしい設えにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の表示は、分かりやすいように工夫している。職員によって整理整頓された施設ではなく、ご利用者と一緒に作り出す環境・家庭の場を目指している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				